

今回は、口腔顔面痛学会の研修施設である九州歯科大学で、半年間の研修を行なった鹿児島大学病院 歯科麻酔科の千堂良造先生に報告させていただきます。

九州歯科大学 ペインクリニックでの半年間の研修

鹿児島大学病院 歯科麻酔科 千堂良造

私は今回、2019年10月1日から2020年3月31日までの半年間、九州歯科大学 ペインクリニックにて、口腔顔面痛医療の研修をさせていただいたので、その概要を報告する。

日本口腔顔面痛学会の研修施設は全国32施設37診療科あるが、うち16施設17診療科が関東に集中しており、九州ではわずか4施設6診療科のみである。南九州では杉村光隆先生（鹿児島大学歯学部歯科麻酔全身管理学分野教授）が着任され、鹿児島大学病院 歯科麻酔科が唯一の研修施設となった。それ以降、私は口腔顔面痛の治療に関わるようになり、今回は見聞を広めるため上記施設で半年間の研修をさせていただいた。



九州歯科大学 附属病院

面を確認、最終的には痛みのセルフコントロールが可能となる流れであった。また、先生ごとに異なるものの、よく登場する「台詞回し」が存在し、診察での歯科医師が発する一言の大切さを考えさせられた。今では、私がおその台詞を診療場面で使用していることも多く、重宝している。

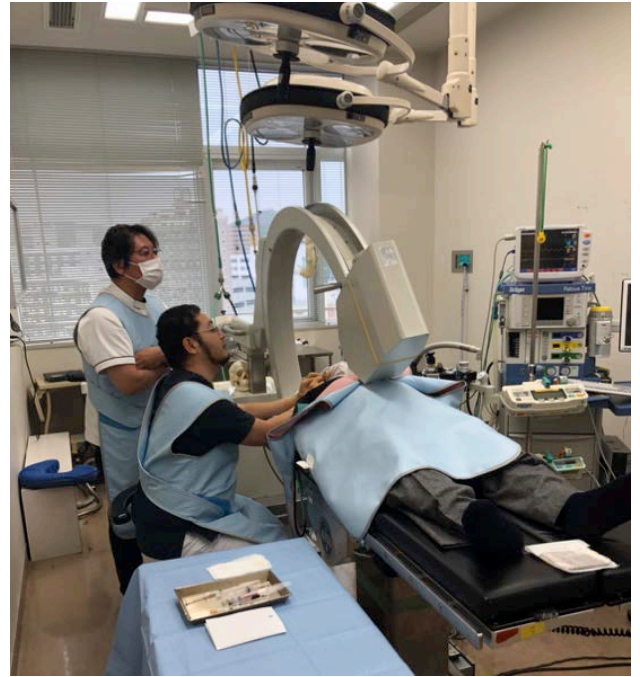
九州歯科大学 附属病院 ペインクリニックでは、指導医・専門医の椎葉俊司先生、専門医の左合徹平先生、認定医の河端和音先生が、多くの慢性痛や三叉神経損傷の治療にあたっている。九州内では最多の専門医・認定医が一診療科内に在籍しており、近隣の患者さんのみならず、熊本県などの遠方からも患者さんが来られる病院である。また、これまで多くの口腔顔面痛に携わる先生方を輩出してきた歴史もある。そのような施設での研修のため、開始前は緊張し、不安に思うことも多かった。いざ研修を開始すると、実際の診療を体験しなくては得られない様々な発見が多く、大変勉強になり、楽しく有意義な半年間であった。

【診療全般】

まず、特筆すべきは「思考-感情-行動の悪循環」を自然と断ち切っていく診察であった。手法としては、アジェンダの設定を共有し、複数回のセッションを行うような厳密な認知行動療法ではないかもしれないが、診察で行われているやり取りは広義の認知行動療法であった。初回ではホワイトボードなどに問題点を外在化、症例の概念化を行い、以降の診察では認知面や行動

【エックス線透視下 下顎神経ブロック】

他の特色として、典型的三叉神経痛に対してエックス線透視下での高濃度の局所麻酔薬を使用した神経ブロックも行っていた。半年間の研修期間において、下顎神経ブロックを経験することができた。典型的三叉神経痛の治療において、微小血管減圧術は疼痛の再発が 10%存在し、ガンマナイフでも 13.6%は再発するため、神経ブロックは選択肢の1つとされている。手術後の再発で、カルバマゼピンでの疼痛管理も不良である長期経過の患者さんを診察する機会は初めてであったが、神経ブロックで鎮痛が得られているのを目の当たりにすると、選択する機会は多くないとしても必要な治療法だと再認識させられた。



エックス線透視下 下顎神経ブロック

写真奥、椎葉俊司先生。写真手前、筆者



最新のエコー機器

【エコーガイド下 星状神経節ブロック】

神経ブロックとしては星状神経節ブロック (SGB) も盛んに行われていた。これまで、私は盲目的な SGB を行ってきたものの、合併症に対する恐怖心があり、治療として選択しにくい印象があった。九州歯科大学では、合併症リスクを回避するとともに、効果を得やすくするために、超音波エコーガイド下での SGB を実施しており、私も 200 回ほど経験を積みさせていただいた。SGB が適応となる疼痛性疾患は多くはないものの、下顎枝矢状分割術後や下顎智歯抜歯術後の神経障害に実施する機会は多く、エコーガイド下での手技は大変有用なものであった。しばしば合併症が問題視されるが、実体験としては然るべき施設においてエコーガイド下でのトレーニングを受けた場合、反回神経麻痺や頸腕神経叢麻痺などの一過性の合併症に遭遇することさえも稀であり、今後は SGB を行う上では必須の技術だと考えられた。

【電流知覚閾値検査】

他にも、神経障害では検査も重要となる。電流知覚閾値検査などでは、独自に開発した口腔粘膜用の端子により、口腔内の特定部位をピンポイントで検査することが可能であった。例えば、舌では舌神経支配領域と舌咽神経支配領域を比較し、診断に役立てていた。



電流知覚閾値検査 精密触覚機能検査などの機器

また、九州ではヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV1) 感染者は多いとされる。実際、HTLV1 由来と考えられた Numb chin 症候群において、定量化が可能な本検

査は診断の一助となっていた。

【その他の治療方法】

●薬物療法：神経障害性疼痛による歯痛や三叉神経痛，特発性歯痛の他に，周術期における癌性疼痛への診療も行っており，麻酔科特有の術中～術後鎮痛が印象深かった。

●トリガーポイント注射：非歯原性歯痛の中でもよく遭遇する筋・筋膜性疼痛による歯痛に対しては，一部の患者さんにトリガーポイント注射が実施されていた。部位によっては，エコーガイド下での Fascia リリースも実施しており，今後の発展が期待される領域である。

●その他：他にも，直線偏光近赤外線照射や東洋医学的治療である漢方治療・鍼治療も実施されており，治療の選択肢が幅広く網羅されていた。

【他施設における口腔顔面痛の研修を終えて】

今回の半年間の研修にあたり，研修を引き受けてくださった九州歯科大学 附属病院の先生方，出向を認めてくださった杉村光隆先生には感謝いたします。週末は鹿児島，平日は北九州という制約のなか，お酒とともに，臨床の疑問や先生方の人となりを知る機会も多くあり，公私ともに大変充実した半年間でした。この場を借りてお礼申し上げます。

私にとって，今回の他施設研修の経験は日常の臨床場面において重宝している。口腔顔面痛では，治療法に偏りがでないような標準化治療を蔑ろにすることはできないが，病態像に応じた過不足ない個別化治療の必要性も高い。学会主催のセミナーは標準化治療の習得にはとても有用であるが，今回のような他施設研修は，標準化治療はもとより，各先生が行う個別化治療も経験できるため，個別化治療の引き出しを増やすことや口腔顔面痛医療の地域格差是正に役立つと感じる。コロナ禍の現在，地域の移動を伴う施設間の研修は実施しにくいかもしれないが，新しい生活様式が落ち着いた暁には様々な施設間での相互研修が行われると，施設間格差の解消にも繋がり，多くの患者さんへと還元されるようになるのではないかと考える。



会食後の記念撮影

写真上段左から筆者，左合徹平，松川維吹

写真中央，河端和音，写真下段左から椎葉俊司先生，大野綾

【千堂良造（せんどうりょうぞう）先生のプロフィール】



<略歴>

2012年 東京医科歯科大学 卒業

2015年 鹿児島大学病院 歯科麻酔科 入局

所属学会，研究会：日本歯科麻酔学会，日本口腔顔面痛学会，日本疼痛漢方研究会

<趣味・特技>

口腔顔面痛に関して，西洋医学のみではなく，東洋医学も勉強中。鹿児島の漢方勉強会である桜岳塾，関東での古今東西の会，九州・沖縄・山口「痛みと漢方を学ぶ会」に参加している。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp